

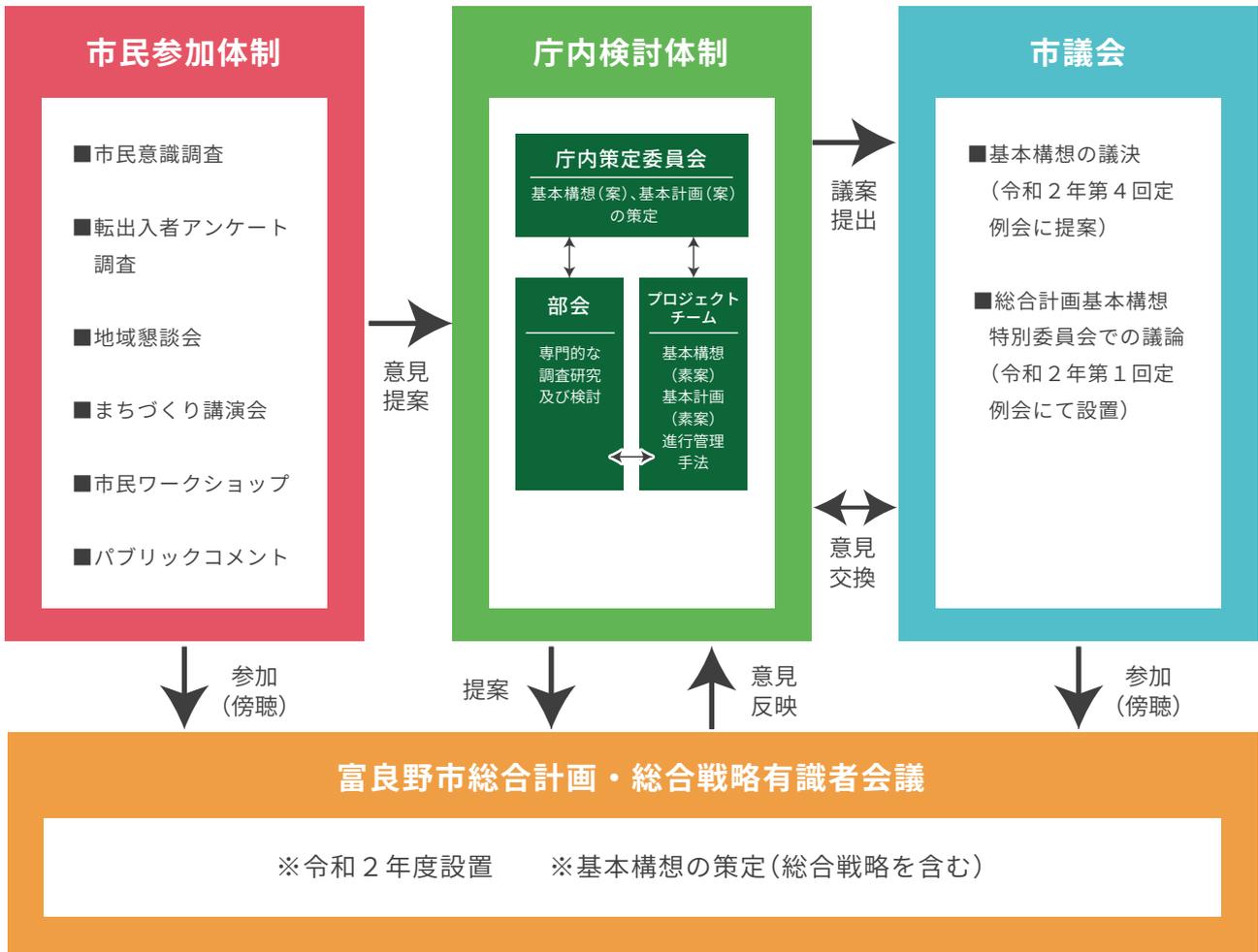
NOTE

[参考資料]

NOTE INDEX

策定の体制	122
策定プロセスノート①～市民の声	123
策定プロセスノート②～有識者会議	129
策定プロセスノート③～市内事業者との共創	131
策定プロセスノート④～庁内策定プロジェクト	132
策定経過一覧	140
アイデア NOTE	146
リンク集	159
旅に向けて	161

第6次富良野市総合計画 策定体制



策定プロセスノート①～市民の声

■R1年10月20日、市民と行政と一緒に「未来の富良野を協働で考える」100人ワークショップを実施しました。

たくさんの総合計画策定のための素材やまちづくりの提案が集まりました。



- 参加総数：104名！
- 多様な年代！...中学生～80代まで全世代
- 多様な出身地群！...富良野出身 / 道内出身 / 道外出身 / 海外出身
- 多様な居住エリア！...市街地西エリア / 市街地東エリア / 北の峰・御料エリア / 鳥沼・大沼・扇山エリア / 布部・五区エリア / 山部エリア / 東山エリア / 麓郷エリア / 布礼別・八幡丘・富丘エリア

素材やまちづくりの提案

参加者感じている富良野の特徴

・魅力 ・満足していないこと

| 魅力 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 |

ワークショップ：地域探索(地域別特徴)

・ユニークな取り組みや場所、可能性を感じるもの
 ・心配なことや不安など ・その他自由なつぶやき



ワークショップ：対話

[テーマ]

- ①『富良野市のユニークポイント』を見つける / 磨く / 新たに創り出す
- ②『これまでの枠を外した魅力的な未来ビジョン』を創り出す
- ③『これまでの施策に不足している / 今後はこうあってほしい』を考える
- ④『自分の周りの人たち / ここにいない人の声』を拾い上げる
- ⑤『人口減少でも豊かな富良野(未来)のために必要なこと』を考える



参加者アンケート



ワークショップ参加者の声(抜粋)

参加者の声 (10-20代)

「大人の意見を聞く貴重な機会となりました。考えていたよりも中高生の心配をしている大人がいて、嬉しく思いました。」 (男性・10代・道外出身)	「自分と同じ意見を持っている人がいたので、なんとなく安心できました。」 (女性・10代・富良野出身)	「いろいろな方が富良野に対して思っていることがあるのだと知ることができたこと。意見交流を楽しむことができました。」 (男性・20代・富良野出身)
「いろいろな方が富良野に対して思っていることがあるのだと知ることができたこと。意見交流を楽しむことができました。」 (男性・20代・富良野出身)	「ここでの話し合いやアイデアが、市にはどう響くのか気になる。このような機会をつついでいただき、ありがとうございます！」 (女性・20代・富良野出身)	「意外と多くの方が富良野のこれからについて考えようとしていることに正直驚いた。皆さん、参加の意思があつて来られていたのだから、3時間以上であつても良かったのではと思う。」 (男性・20代・富良野出身)

参加者の声 (30代)

「富良野についてここまで考えることってあまりなかったけど、みんながどういった形で楽しんでいたのがすごく良かった。」 (女性・30代・富良野出身)	「富良野に住み始めて日が浅いですが、これほどの人が富良野の未来について意見交換している様子を見て、富良野の未来は明るいと感じました。」 (男性・30代・道外出身)	「みんなそれぞれ考えや思いがある。とても素晴らしい交流の場だと思います。」 (男性・30代・富良野出身)
「説明がとても分かりやすく良かった。もっと長くWSしても良かったです。逆に言うと、それだけ楽しく、良いWSでした。」 (男性・30代・富良野出身)	「参加者が思いのほか多かったことが印象に残りました。まだまだ富良野は大丈夫と少し安心しつつ、でもとりどりが動いていかないと...という瀬戸際だなと感じました。」 (女性・30代・富良野出身)	「新しい発見や意識できるワークショップだった。皆さん熱く、しっかりとした考えがあり、とても楽しかった。意見が言い合い、否定しない環境が新鮮でよかった。」 (男性・30代・富良野出身)

参加者の声 (40代)

「いろいろな意見が出て、目にも口にもアイデアもあり、とても貴重な時間に参加できてよかったです。次回も参加したい。市民の声をもっと取り上げてほしい。」 (女性・40代・道外出身)	「話したことがない方と話せて楽しかった。こういう場があらゆる場面であったら良い。」 (女性・40代・道外出身)	「行政への不満が大きい・わかりやすいビジョンが必要」 (男性・40代・道外出身)
「自分の住んでいるマチのこと、生活のことを多世代の方々と話ができよかったです。特に高校生など学生の声が開けたことが印象的でした。」 (女性・40代・道内出身)	「すごい人材がいっぱいいるなと。」 (男性・40代・富良野出身)	「こんなに多数の参加者が出席しているのだと嬉しく思いました。これからの富良野を楽しみます。いろいろな意見が出たことは素晴らしい。」 (男性・40代・富良野出身)

参加者の声 (50代)

「色々な方の意見や話を聞いてよかったです。一回で終わらずに次につなげてほしい。3時間は長いなと思っていましたが、あっという間に過ぎ、とても楽しいひとときでした。」 (女性・50代・道外出身)	「たくさんの方が現状や未来のことについて考えていて、スゴイと思った。数値化、視覚化はよかった。」 (女性・50代・道外出身)	「このような場を何度も何度も繰り返すことが大切」 (男性・50代・道内出身)
「先の見えない未来、フラノのまちづくりに意識をもった人たちの話はとても良い機会でした。どんどんやたらいいと思います。」 (男性・50代・道内出身)	「市民の様々な「思い」や求めている声の内容はすごく共通しているのに、どうして行政に届かないのか??不思議だなと思いました。行政ちゃんとしようよ!!」 (男性・50代・富良野出身)	「サークル、部活のように、このような場を続けること。」 (男性・50代・富良野出身)

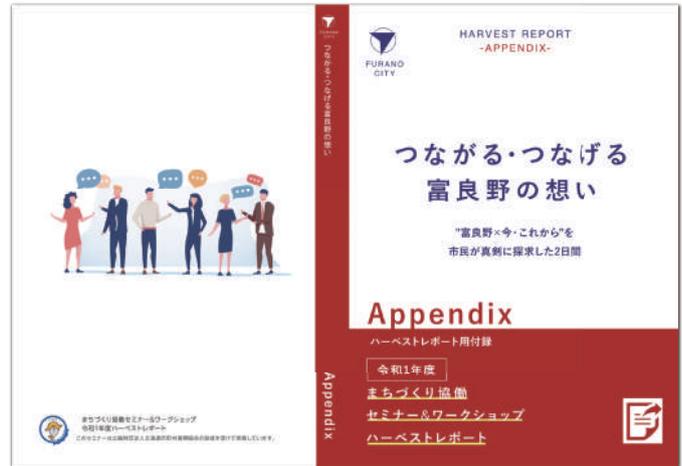
参加者の声 (60代~)

「話し合うこととても大切だと思います。短発で終わらず、行政に生かせるような道程があればと思います。」 (女性・60代・道外出身)	「いろいろな意見を聴くことができてよかったです。今日のよう、市長がもっと意識をもって考える。」 (男性・60代・道内出身)	「新鮮でした。これからも続け、いつかは結果として出せたらよいと思います。」 (女性・60代・富良野出身)
「自分が感じていなかった富良野らしさ、自然を知ることができた。行政が市民を圧迫するのは良くないことだと思います」 (女性・60代・富良野出身)	「市民が自分の問題として、これからの富良野に特に大切なことを意識・議論することが大事。今まで平和に過ごしてきた富良野が単なる過疎地域に変質していくのは残念。」 (男性・70代・道外出身)	「とても有意義だった。いろいろな発想が参考になった。成果する住民目標で政策を実行してほしい。(人)を大切に。」 (男性・70代・富良野出身)

第2回ワークショップ(R1年12月7日)では、第1回参加者のうち26名が、市民と行政職員がごちゃまぜになり、1回目の素材を振り返りました。
最終的に、各チームが「富良野の未来への提案」を行いました。



ワークショップ当日の内容は2冊の冊子にまとめられています。

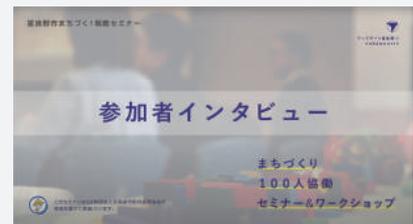
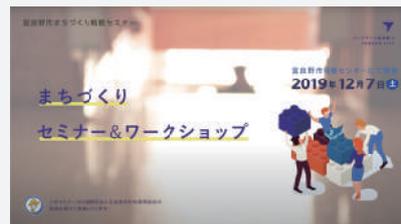


- ハーベストレポート(90ページ)
- APPENDIX: 付属資料(120ページ)

※QRコードの読み取りに対応したスマートフォンをお使いの方は、右記のQRコードをご利用になると、動画にアクセスできます。



ワークショップの様子は3編のショートムービーでもご覧になることができます。



- VOL1「まちづくり 100人協働ワークショップ 1回目」3:01
- VOL2「まちづくり 100人協働ワークショップ 2回目」2:11
- 番外編「参加者インタビュー」3:18

※QRコードの読み取りに対応したスマートフォンをお使いの方は、右記のQRコードをご利用になると、動画にアクセスできます。



その他、市民意識調査・転出入者アンケート調査や、地域懇談会での声も大切な素材・意見です。



市民の声：市民意識調査(R1)



市民の声：地域懇談会(R1)

そして、R2年10月4日には、市民共創ワークショップを有識者会議委員との合同形式で実施し、多くのアイデアや意見が出されました。



さまざまな市民の声、市民共創ワークショップ等でのアイデアや素材は、有識者会議や策定プロジェクト等での検討の中で大切に扱ってきました。

市民参加手続き一覧

①市民意識調査

- ・調査期間：令和元年7月12日～令和元年7月31日
- ・調査方法：郵送による調査票の配付・回収
- ・調査対象：富良野市を5つのエリア(市街地、市街地近郊、麓郷布礼別エリア、山部エリア、東山エリア)に区分し、18歳以上の中から市街地は約550人、それ以外はそれぞれ約140人(合計約1,110人)を無作為に抽出
- ・回収率：35%

②転出入者アンケート調査

- ・調査期間：令和元年7月26日～令和元年8月9日
- ・調査方法：郵送による調査票の配付・回収
- ・調査対象：平成30年1月1日から平成30年12月31日までに、富良野市外から転入及び富良野市外へ転出した18歳以上の方
- ・回収率：転出者21% 転入者22%

③富良野市の未来を考えるまちづくり研修会

- ・開催日時：令和元年10月25日
- ・開催場所：富良野文化会館
- ・参加者数：90名
- ・研修内容：①基調講演
「Society5.0と地方への期待」
総務省北海道総合通信局 情報通信部長 白田昇氏
- ②事例報告
「ICTでまちを元気に～スマートシティ会津若松の取組とビジョン～」
福島県会津若松市企画政策部企画調整課 副主幹 五十嵐徹氏

市民参加手続き一覧

④市民ワークショップ

●まちづくり戦略セミナー

【1回目】

- ・開催日時：令和元年10月20日
- ・開催場所：富良野地域人材開発センター
- ・参加者数：104名
- ・実施内容：

- ①セミナー：富良野市の客観的データや他地域の事例を学び、富良野市の特徴を考え、現在を俯瞰し、まちの未来について考える。
- ②ワークショップ：富良野市の客観的データや他地域の事例を参考に、様々な視点から探求し、共創する。

【2回目】

- ・開催日時：令和元年12月7日
- ・開催場所：富良野市保健センター
- ・参加者数：26名
- ・実施内容：ワークショップ
1回目で出された素材等を活用し、未来につながる提案を共創する。

●まちづくり共創ワークショップ

- ・開催日時：令和2年10月4日
- ・開催場所：富良野文化会館
- ・参加者数：52名
- ・実施内容：①総合計画基本構想原案の策定過程及び内容の情報共有
②具体的な戦略・戦術の共創(ワークショップ)

⑤未来をつくろう市民と市長の地域懇談会

●令和元年度

- ・実施期間：令和元年9月20日～令和元年11月19日
- ・実施会場：市内15会場
- ・参加者数：453名

●令和2年度

- ・実施期間：令和2年10月15日～令和2年11月11日
- ・実施会場：市内5会場(コロナ禍を考慮し、開催場所を縮小)
- ・参加者数：79名(参加人数を制限、事前申込制)

⑥パブリックコメント

●第6次富良野市総合計画基本構想原案について

- ・意見募集期間：令和2年10月1日～令和2年10月20日
- ・意見提出件数：0件

●第6次富良野市総合計画前期基本計画(素案)について

- ・意見募集期間：令和3年1月14日～令和3年2月2日
- ・意見提出件数：23件

策定プロセスノート②～有識者会議

■富良野市の総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定、実施状況及び効果の検証を行うために、公募の市民、各団体の代表や学識者など多様な委員によって、富良野市総合計画・総合戦略有識者会議が行われました。



[令和2年度]

- 6月 4日 富良野市総合計画・総合戦略有識者会議委員へ事前資料等発送
- 6月 30日 第1回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議
- 7月 31日 第2回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議
- 8月 28日 第3回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議
- 10月 4日 第4回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議(まちづくり共創ワークショップ)
- 11月 2日 第5回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議
- 11月 30日 第6回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議
- 1月 12日 第7回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議
- 2月 24日 第8回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議

富良野市総合計画・総合戦略有識者会議 委員名簿

No.	機関名	団 体 名	役 職	氏 名
1	産業界 3名	富良野商工会議所	会頭	荒 木 毅
2		ふらの観光協会	事務局長	石 川 芳
3		ふらの農業協同組合	常務理事	菊 地 邦 之
4	行政機関 3名	北海道上川総合振興局	地域創生部長	加 茂 秀 治
5		北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所	副所長	松 村 博 文
6		富良野市	市長	北 猛 俊
7	教育機関 1名	富良野市校長会	会長	山 崎 省 三
8	金融機関 1名	富良野金融協会	会長	倉 西 裕 明
9	労働団体 1名	富良野地区連合会	執行委員	柿 崎 崇 仁
10	報道機関 1名	ラジオふらの	取締役	藤 田 恵 士
11	その他 市民団体 5名	富良野青年会議所	理事長	吉 本 信一郎
12		富良野中央婦人会	会長	平 間 早 苗
13		富良野市社会福祉協議会	会長	小 玉 將 臣
14		ふらのスポーツ協会	専務理事	遠 藤 和 章
15		山部地区総合振興協議会	会長	吉 中 文 也
16		東山地域連絡協議会	会長	林 健 一
17	一般公募 4名	一般市民		飯 沼 巖
18		一般市民		黒 木 健太郎
19		一般市民		山 崎 留 美
20		一般市民		岩 井 美 和

「富良野市総合計画・総合戦略有識者会議設置条例」に基づき、総合計画基本構想・総合戦略の策定、その後の検証を行うもので、任期は2年となります。

任期：令和2年6月1日～令和4年5月31日

策定プロセスノート③～市内事業者との共創

■市民共創のプロセスを促進するために、富良野市内の事業者であるフラノデザイン株式会社に総合計画策定の全体コーディネートを委託し、ワークショップの企画・進行を始め、各種会議体や話し合いのファシリテーター（進行役）をつとめました。

[フラノデザインを選定した理由]

- ①令和元年度に、市民ワークショップの企画・運営に携わり、そこで出されたニーズの見える化（可視化）に取り組み、市民ひとりひとりの意見や思いを形にし、新たな総合計画の策定に向けた基礎資料作りを実践している。
- ②富良野圏域5市町村を対象に地域密着型フリーペーパー「WAKUDOKI FURANO」を“知る・体験・発信・愛着”の4つのコンセプトをもとに発行し、人と人をつなげる取り組みを実践している。

フラノデザインの役割

各会議体・ワークショップの話し合いの場を支援	1
各会議体間、市民の意見を繋ぐ支援	2
情報の見える化・デザインの支援	3

<p>FURANO DESIGN 潜在的な力や思いを引き出す力に自信あり</p>  <p>大曾根衛 Mamoru Osone</p> <p>1976年4月生まれ（現在44才） 横浜出身</p> <p>1999年株式会社キーエンス入社。コンサルティング営業にて全国営業ランキング1位となった他、20代は事業会社で様々な職種や事業再生を経験。その後、医療機関向けの人材育成・組織開発を行う会社を創業し、現在は医療の枠を超え、企業や自治体向けにビジョン共創やアップデート支援など未来づくりサービスを展開。</p> <p>2003年 株式会社ミスミ入社 マネジメント経験を積む 2006年 株式会社メディヴァに参画 2010年 株式会社アクリート・ワークス創業 2016年 (社) 地域包括ケア研究所創業 2017年 株式会社テルメイクを創業/富良野へ移住</p>	<p>FURANO DESIGN 人を繋げて伝える力に自信あり</p>  <p>中村靖教 Yasunori Nakamura</p> <p>1985年8月生まれ（現在35才） 富良野出身</p> <p>2006年にIBMへ入社後、社に表彰を多数獲得するまで実績を積んでいたが、父の他界をきっかけに富良野へ帰郷。その後、デザインの力で富良野の未来を作りたいと考え「フラノデザイン」を創業。現在では富良野市や近郊市町村の企業や自治体の依頼を多数抱え雇用や人口減少対策を念頭に活動を展開しています。</p> <p>2006年 株式会社日本IBM入社（社内表彰多数） 2010年 レストラン四季の恵にて責任者に就く 2015年 フラノデザイン 創業 2019年 フラノデザイン（株）創業 2020年 まちのこト（株）創業、(有) PET創業</p>	<p>FURANO DESIGN 企画をデザインして伝える力に自信あり</p>  <p>村上達也 Tatsuya Murakami</p> <p>1981年2月（現在40才） 大阪出身</p> <p>20才の頃に北海道へ旅したことをきっかけに「いつか必ず北海道へ帰る」と決意し。大阪までの帰路でウェブデザイナーになることを決断し独学でデザインとコーディング技術を習得しプロダクションへ入社。その後4年間取締役を務め北海道への移住を実現してワンドロップとして独立。現在は全国各地の案件を麓郷で製作しています。</p> <p>2001年 北海道へ旅に来て宗谷岬から徒歩で大阪へ 2005年 大阪の某プロダクションへ入社 2009年 取締役役に就任 2013年 北海道へ移住（江別市） 2015年 富良野市へ移住</p>
--	--	---

策定プロセスノート④～庁内策定プロジェクト



富良野市総合計画庁内策定委員会 委員名簿

役 職	職 名	氏 名	備 考
委員長	市長	北 猛俊	
副委員長	副市長	石井 隆	
副委員長	教育長	近内 栄一	
委 員	総務部長	稲葉 武則	総務部会長
委 員	市民生活部長	山下 俊明	市民生活部会長
委 員	保健福祉部長	柿本 敦史 (若杉 勝博)	保健福祉部会長
委 員	経済部長	川上 勝義 (後藤 正紀)	経済部会長
委 員	建設水道部長	小野 豊	建設水道部会長
委 員	教育部長	亀渕 雅彦	教育部会長
委 員	財政課長	藤野 秀光	
委 員	企画振興課長	関澤 博行 (西野 成紀)	事務局

富良野市総合計画庁内策定委員会 プロジェクトチーム 名簿

No.	所属	氏名	備考
1	総務部財政課財政係	上 坂 雅 史	
2	総務部スマートシティ戦略室スマートシティ推進係	鶴 飼 敏 行	
3	保健福祉部高齢者福祉課地域包括支援センター係	志 村 和 博	
4	保健福祉部高齢者福祉課介護保険係	野 澤 進 吾	
5	経済部商工観光課観光係	笹 田 武 志	
6	建設水道部上下水道課水道施設係	鈴 木 雄 二	
7	建設水道部上下水道課業務係	芳 澤 侑 菜	
8	教育委員会こども未来課	松 木 政 治	
9	教育委員会虹いろ保育所保育係	野 村 国 広	
10	総務部企画振興課企画振興係	入 交 俊 之	事務局

全施策担当者ヒアリング

■富良野市全施策(約100)ヒアリングを実施(令和2年4月22日～28日)

⇒各担当者が感じている現状の課題、成行きの未来、必要と思われることなどを意見交換。



■ヒアリング実施者

- ・企画振興課 入交
- ・フラノデザイン 大曾根、中村

庁内プロジェクトチームのハイライト

第1回：4月16日



- チームビルディング
- プロセスの共有・現在地の確認
- 素材の整理
- 話し合いの環境づくり

第2回：5月7日



- 素材の把握、読み込み、整理
- 市民の声の構造化
- 将来予測情報の収集
- ZoomとGoogleドライブ使い方レクチャー
- パディ制度

第3回：5月21日



- 富良野版起り得る未来年表づくり
- 課題の種類の見極め方
- 問題解決アプローチ⇄システム思考アプローチ：系で俯瞰し、構造を視える化する

第4回：6月4日



- 系で観る(ループ図)づくり
- 実際に富良野市を歩く
- 創りたい富良野を探求する
- 総合計画策定の前提・重要な視点を考える

第5回：6月18日



- 総合計画のフレームづくり
- 総合計画策定の前提の整理、構造化
- ロゴ・サイトづくり

第6回：7月2日



- 前提に基づき、1-5回までの素材を再度整理し、「基本構想」づくり
- 有識者会議振り返り
- 人口データの取り扱いについて
- 基本構想の構造化

道総研訪問



- 道総研訪問
(人口データ：ディスカッション)
- 基本構想づくり
- ロジック用データ整理

第7回：7月16日



- 基本構想案づくり
(ビジョン・コンセプト)
- デジタルの動向レクチャー
- 富良野市の財政レクチャー
- 全体フレームづくり

第7.5回：7月17・20・21日



- 基本構想案づくり②
(ビジョン・コンセプト)
- デジタルの動向レクチャー②
- 富良野市の財政レクチャー②
- 全体フレームづくり②

第8回：8月6日



- 基本構想案づくり③
(ビジョン・コンセプト)
- デジタルの動向レクチャー③
- 富良野市の財政レクチャー③
- 全体フレームづくり③

第9回：8月20日



- 基本構想原案づくり
- 人口データ・各種キーデータ
- 総合戦略検討

第10回：9月3日



- 有識者会議振り返り
- 基本構想原案修正
- 人口データ・ターゲット検討
- 総合戦略検討

庁内プロジェクトチームのハイライト

第11回：9月20日



- 基本構想原案修正
- 総合戦略検討

第12回：10月1日



- 基本構想原案修正②
- 総合戦略検討②

10月4日：市民共創WSへの参加



- 市民との共創ワークショップ(具体的戦略を共創)

第13回
10月15日

第14回
11月5日

第15回
11月19日

第16回
12月3日

第17回
12月17日

第18回
1月7日

第19回
2月4日

第20回
3月4日

- 総合計画重点施策検討・修正
- 策定後運用方法検討
- 周知促進方法検討



職員説明会・職員研修・ワークショップ



■R1年7月11日・12日

総合計画職員説明会

■R2年8月18日

総合計画と個別計画の接着に向けた職員説明会

■R2年10月12日・13日

総合計画職員研修(3時間×4コマ)

■R2年3月24日・25日・26日

総合計画職員研修(3時間×4コマ)

庁内プロジェクトチーム メンバーの声(抜粋)

プロジェクトに参加するまでは、計画策定＝「現状の課題をどのように解決していくかを考える」という思考が自分の頭の中の大半でしたが、今後起こりうる未来を考え、どのような富良野を創るのかという思考の大切さを感じました。

そのためには、物事の本質を把握する力、情報収集力、分析力などなど色々な能力が必要ですが、プロジェクト会議に出るたびに自分の能力のなさを痛感するとともに、メンバーのみんなスゲーなあ～と思ってました。目の前の仕事でゆとりがなくなってしまう時もありますが、今後もアンテナを高く、WA!を意識して、よりよい仕事ができればいいなと思います。

ひとつの事象の考える時に一部分だけにとらわれず、時には俯瞰的に考えることの重要性や、行政内部での部署横断的な視点で考えることの大事さを再認識しました。

行政に携わる一員として、情報発信が不足していること、逆に情報を取りに行く姿勢が求められると感じています。コロナ禍で行政もデジタル化が急加速している状況で、情報の新鮮度が求められ、今後はさらにスピード感が増していくと思うので、そういった部分を整理できるスキルを身につけたい。色んな視座から物事を考えること、目標に向かって常に逆算しながら考えていくこと、どういう状態を作り出したいかを明確にすること、常にこの意識を持つことの必要性を改めて感じました。

プロジェクトチームに参加するにつれ、初めて目にしたり、耳にしたりすることが多く、自分の無知を痛感しました。他のメンバーの考えや意見を聞くたびに、関心することばかりで、これまで、いかに狭い範囲の中で業務をしていたのか、自分の中で実感し、反省するが多かったと思います。

バディとの打合せを習慣とし、プロジェクトで他のバディの意見を聞くことで、自分たちが気づかなかった視点を取り入れることができたと思います。

総合計画は、今後も適宜見直しをしながら、全体の評価を繰り返すことが大切だと思います。

このプロジェクトチームに参加することでたくさんの気づきを頂きました。プロジェクトが始まると同時にコロナ禍で世界が同時に混沌とし、先行きが不透明な中で、富良野市の方向性をどう描いていけばいいのか？と思考ストップになりそうな時に、このチームに参加している時間では、そんな混沌とした時代を生き抜くヒントやキーワードをたくさん頂けました。

ここからは、自分で発してきた言葉をカタチにし行動に移す時です。ここはいつも新しく、常に変化を惜しまず、みんなを巻き込んで、爆進したいと思います。遊び心だけは忘れずに・・・

ケネディ大統領のムーンスピーチのように、「何だかよくわからんけど元気になるリーダーの発言」から、多くの人々の行動変容が起きて、アメリカが世界のリーダー的な地位を築いたという歴史も事実です。総合計画もしっかり議論を重ね、多くの人々の理解を得て、思いをしっかりと乗せれば意味がある！と感じさせてくれたのは今回の関わりがあつてこそ。

第6次総合計画は「ひと」「しごと」「まち」「自然」の柱を掲げていますが、圧倒的に「ひと」の大切さを表現していると思います。策定して満足している場合ではなく、プロジェクトチームの仲間や関わっていただいた方と一緒に、計画策定をスタート地点として、走り続けなければなりません。

序内プロジェクトチーム メンバーの声(抜粋)

市民の声を聞き、職員の声を聞き、課題や思いを知ることができ、これから職員としてどうあるべきか、ということを考えるきっかけになりました。すべてが上手にできるようになったわけではないけど、課題の本質を見極める、系で考える、なぜそう考えるのか深く聴く...いくつになっても実践し続ける人でありたいと思います。この大きな変化があった2020年という年に始まったプロジェクトに参加し、このメンバーと一緒に仕事ができて本当に良かったです。反省も抱えつつ、これからの自分の糧にしていきたいです。もし過去の自分に会えるなら、プロジェクトチームに立候補したらいいよ、と教えてあげたい...そんな気持ちです。

プロジェクトチームの議論の中で総合計画策定の「前提・大切な視点」に多くの時間を割きましたが、物事を進めるとき、振り返るとき、確認するとき...など、共通事項として「前提・大切な視点」は大事なことだと感じました。組織・チームとして同じ方向を向いていることと向いていないことでは、理解度・達成度・共感度などあらゆることで違いが生じるのではないかと思います。

この議論を通して、色々な取組で、まず前提の確認をしている自分がいました。計画は策定がゴールではないので、これからの動きが大事だと思います。まちづくりスローガンで掲げた「『美しい』」のその先へ。WA！がまち、ふらの」をみんなで創り出し、見に行きたいです。

以前、企画振興課に所属していたこともあり、元々総合計画の策定がどのように行われているのかが興味がありました。とはいうものの、入庁してまだ6年目で総合計画が新たに策定されること自体が初めての経験だったので、正直かなり緊張と不安がありました。

今回の総合計画策定に向けたプロジェクトチーム以外にも、LINE プロジェクトや BeFOCUS といったチームが立ち上がり、部署を横断して事業に取り組む動きが活発になってきているのかなと感じています。PTの中でも言われていた通り、今後の行政にはこうした動きが大切になってくるのだと思うので、今回の経験を生かして仕事をやっていきたいと思っています。

まず参加したいと思ったのは、役所以外の人に関わるという手法に興味をもちました。参加していくなかで感じたのは、感じたこと、思ったことを言える安心感があったこと、これは自分の職場でもいかせるといふ発見が多々あったこと、それがとても貴重な体験でした。回をかさねていくなかで、参加者の思うふらの愛や課題を感じたり、若手の職員も堂々としてきて、なんかいいな〜と思いました。

これから総合計画がどのように市民の道しるべになっていくのか、それを期待しながら、これからも働いて、生きていく所存です。ご一緒させてもらったメンバーの皆さんありがとうございました。

私はプロジェクトに参加して、多くの刺激を受けました。

色々なことを深く知ることが出来たことは勿論ですが、前提となる考え方を大切にする必要性や未来予測からの考え方など、1年前の自分と今の自分を見つめなおしても、自分の価値観が広がったキッカケの場の一つとなりました。

そこには、プロジェクトチームのメンバーやフラノデザインさん、多くの市民の声や可能性があったからであり、こうした「動き」を続けていく、創っていく側に立たなければとの責任も感じています。そのために、まずは、「楽しいWA！」を創っていこうと思います。

話し合いの過程を見える化する

■長期間に及ぶプロジェクト、出てきた素材や芽を大切に育てていくために、市役所内議員ロビーを「誰でも覗ける公開型のプロジェクトルーム」として使用しました。壁やパネルにプロジェクトが進んでいく過程がリアルタイムに更新されることで、これまでの議論や大切なポイントが「見える化」され、振り返り作業や繋げていくプロセスに役立ちました。



策定経過一覧

平成30年度

- 1月14日 第1回総合計画庁内ワーキングチーム
- 1月22日 第2回総合計画庁内ワーキングチーム
- 1月30日 第3回総合計画庁内ワーキングチーム
- 2月8日 第4回総合計画庁内ワーキングチーム
- 2月21日 第5回総合計画庁内ワーキングチーム
- 3月7日 第6回総合計画庁内ワーキングチーム
- 3月14日 第7回総合計画庁内ワーキングチーム
- 3月25日 総合計画庁内ワーキングチーム報告会

令和元年度

- 6月21日 第1回総合計画庁内策定委員会
- 7月4日 第2回総合計画庁内策定委員会
- 7月11日 市民意識調査の実施(～7月26日)
- 7月11日～12日 総合計画職員説明会
- 7月17日 第3回総合計画庁内策定委員会
- 7月26日 転出入者アンケート調査の実施(～8月9日)
- 8月6日 第4回総合計画庁内策定委員会
- 9月4日 第5回総合計画庁内策定委員会
- 10月7日 第6回総合計画庁内策定委員会
- 10月20日 まちづくり戦略セミナー【セミナー&ワークショップ①】
- 10月23日 第7回総合計画庁内策定委員会
- 10月24日 富良野市総合戦略有識者会議
- 11月5日 第8回総合計画庁内策定委員会
- 11月18日 第9回総合計画庁内策定委員会
- 12月7日 まちづくり戦略セミナー【ワークショップ②】
- 12月23日 第10回総合計画庁内策定委員会
- 1月6日 第11回総合計画庁内策定委員会
- 2月3日 第12回総合計画庁内策定委員会
- 3月23日 第13回総合計画庁内策定委員会

令和2年度

- 4月6日 第14回総合計画庁内策定委員会
- 4月16日 第1回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 4月22日～28日 総合計画職場ヒアリング
- 5月7日 第15回総合計画庁内策定委員会
- 5月7日 第2回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 5月21日 第16回総合計画庁内策定委員会
- 5月21日 第3回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 5月29日 第17回総合計画庁内策定委員会
- 6月4日 富良野市総合計画・総合戦略有識者会議委員へ事前資料等発送
- 6月4日 第4回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 6月18日 第5回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 6月22日 第18回総合計画庁内策定委員会
- 6月30日 第1回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議
- 7月2日 第6回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 7月16日 第7回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 7月22日 第19回総合計画庁内策定委員会
- 7月31日 第2回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議

策定経過一覧

- 8月 6日 第8回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 8月18日 総合計画と個別計画の接着に向けた職員説明会
- 8月20日 第9回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 8月21日 第20回総合計画庁内策定委員会
- 8月28日 第3回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議
- 9月 3日 第10回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 9月14日 第21回総合計画庁内策定委員会
- 9月17日 第11回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 9月29日 第22回総合計画庁内策定委員会
- 10月 1日 第12回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 10月 1日 総合計画基本構想パブリックコメント(～10月20日)
- 10月 4日 第4回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議
- 10月 4日 まちづくり共創ワークショップ
- 10月12日～13日 総合計画職員研修
- 10月15日 第13回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 10月26日 第23回総合計画庁内策定委員会
- 11月 2日 第5回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議
- 11月 5日 第14回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 11月19日 第15回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 11月24日 総合計画庁内策定委員会部会長会議
- 11月27日 第24回総合計画庁内策定委員会
- 11月30日 第6回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議
- 12月 3日 第16回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 12月16日 総合計画庁内策定委員会部会長会議
- 12月17日 第17回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 12月21日 第25回総合計画庁内策定委員会
- 1月 7日 第18回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 1月12日 第7回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議
- 1月14日 総合計画前期基本計画パブリックコメント(～2月2日)
- 2月 4日 第19回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 2月16日 第26回総合計画庁内策定委員会
- 2月24日 第8回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議
- 3月 4日 第20回総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- 3月 4日 第27回総合計画庁内策定委員会
- 3月24日～26日 総合計画職員研修

富良野市総合計画庁内策定委員会設置要綱

(設置・目的)

第1条 新たな富良野市総合計画(以下「総合計画」という。)の総合的かつ効果的、効率的な策定を行うための庁内組織として、富良野市総合計画庁内策定委員会(以下「策定委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 策定委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 総合計画基本構想の策定に関すること。
- (2) 総合計画基本計画の策定に関すること。
- (3) その他総合計画の策定に必要な事項

(組織)

第3条 策定委員会は、富良野市庁議規程第2条に規定する者をもって組織する。

(委員長)

第4条 策定委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、市長をもって充て、策定委員会を代表し、会務を総括する。
- 3 副委員長は、副市長及び教育長をもって充て、委員長不在のときは委員長の職務を代理する。

(部会等)

第5条 第2条に規定する所掌事務を行うに当たり、専門的な調査研究及び検討のため、次の部会を置き、部長の職にある委員を部会長とする。

- (1) 総務部会
 - (2) 市民生活部会
 - (3) 保健福祉部会
 - (4) 経済部会
 - (5) 建設水道部会
 - (6) 教育部会
- 2 部会を横断する事項を実務的に検討するための補助機関として、策定委員会にプロジェクトチームを置くことができる。
 - 3 前2項に掲げる部会及びプロジェクトチームに属する職員は、委員長が指名する。

(会議)

第6条 策定委員会の会議は、委員長が招集し、会議の議長となる。

- 2 部会の会議は、部会長が招集し、会議の議長となる。
- 3 委員長及び部会長は、必要に応じ委員以外の者を会議に出席させることができる。

(事務局)

第7条 策定委員会の庶務は、総務部企画振興課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、策定委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、令和元年5月20日から施行する。

(要綱の失効)

- 2 この要綱は、令和3年3月31日限り、その効力を失う。

新たな富良野市総合計画策定の基本方針

1. 計画策定の趣旨

(1) 総合計画の役割

行政の取り巻く内外の情勢変化を的確に捉え、中長期的な視点に立ち、新たな時代に対応できる行政運営の指針とする。

(2) 総合計画に係る基本構想の取扱い

地方自治法の改正(平成23年5月)に伴い、「議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め」る義務付けは廃止された。

しかし、総合計画は、従来から市の総合的かつ計画的な行政運営の指針を示すものであり、市民のまちづくりの中長期的な展望を示すものであることから、法的な策定義務がなくなっても策定すべきである。

また、総務大臣通知(平成23年5月)においても、「改正法の施行後も、地方自治法第96条第2項の規定に基づき、個々の市町村がその自主的な判断により、引き続き現行の基本構想について議会の議決を経て策定することは可能である」としており、まちづくりのビジョンである基本構想は、市民の代表である市議会の議決を経ることが必要かつ重要なことである。したがって、富良野市では、「富良野市議会の議決すべき事件を定める条例」を改正し、総合的かつ計画的な行政運営を図るための基本構想を、議会の議決を経ることとする。

2. 計画策定に当たっての基本姿勢

- ①市民・職員の参画による幅広い意向の集約と反映
- ②市民・企業・各種団体とも共有できる、わかりやすい計画の策定
- ③職員が意識・活用する計画の策定
- ④予算編成・組織体制等と連動した計画の策定
- ⑤目標・指標の設定による進行管理が見える計画の策定
- ⑥複雑化・多様化する課題への組織横断的な対応

3. 計画の策定体制

(1) 庁内検討体制

- ①富良野市総合計画庁内策定委員会
- ②富良野市総合計画庁内策定委員会専門部会
- ③富良野市総合計画庁内策定委員会プロジェクトチーム
- ④部課別理事者ヒアリング
- ⑤職員アンケート調査
- ⑥職員提案制度

(2) 市民参画体制

- ①富良野市総合計画審議会
- ②地域懇談会
- ③市民意識調査
- ④転出入者アンケート調査
- ⑤まちづくり講演会
- ⑥市民ワークショップ
- ⑦事業所・関係団体別ヒアリング
- ⑧パブリックコメント

(令和元年6月21日 総合計画庁内策定委員会にて決定)

富良野市議会の議決すべき事件を定める条例

第1条 この条例は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第96条第2項の規定により、本市議会の議決すべき事件について定めるものとする。

第2条 議会の議決すべき事件は、次のとおりとする。

(1) 市が株式会社富良野振興公社の株主総会において、次に掲げる事項について議決権を行使すること。

ア 定款の変更

イ 会社の合併

ウ 会社の解散

(2) 市が定住自立圏形成協定の締結若しくは変更をし、又は当該協定の廃止を求める旨の通告をすること。

(3) 市における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想の策定、変更又は廃止に関すること。

附 則(昭和41年10月15日条例第54号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成25年9月13日条例第14号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(令和元年12月17日条例第42号)

この条例は、公布の日から施行する。

富良野市総合計画・総合戦略有識者会議設置条例

(設置)

第1条 富良野市の総合計画(以下「総合計画」という。)及びまち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)第10条第1項に規定する市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定、実施状況及び効果の検証を行うため、富良野市総合計画・総合戦略有識者会議(以下「有識者会議」という。)を置く。

(所掌事項)

第2条 有識者会議は、次に掲げる事項を行う。

- (1) 総合計画の基本構想及び富良野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「総合戦略」という。)の策定に関すること。
- (2) 総合計画の基本構想及び総合戦略の実施状況及び効果の検証に関すること。

(組織)

第3条 有識者会議は、会長及び委員20人以内をもって組織する。

2 会長は、市長をもって充てる。

3 会長に事故あるときは、会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

4 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 市民(公募による。)
- (2) 市内の各種団体を代表する者
- (3) 学識経験者
- (4) 市長が必要と認める者

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 有識者会議は、会長が招集し、その議長となり会務を総理する。

2 有識者会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第6条 有識者会議は、任務の遂行に必要と認められるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 有識者会議の庶務は、総務部企画振興課において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、有識者会議の運営に関し必要な事項は、会長が有識者会議に諮って定める。

附 則(平成27年6月26日条例第23号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(令和元年12月17日条例第43号)

(施行期日)

1 この条例は、令和2年4月1日から施行する。

(任期の特例)

2 この条例による改正前の富良野市総合戦略有識者会議設置条例に基づき委嘱した委員の任期は、令和2年3月31日までとする。

(準備行為)

3 この条例による改正後の第3条第4項の委員の委嘱に関して必要な行為は、この条例の施行前においても、行うことができる。

参考) 検討時に出ていた「アイデアや視点」NOTE

総合計画策定プロセスにおいて、様々な話し合いで出てきた提案やアイデア、視点をまとめたものです。

ここに挙げられているものは、事業として実施を約束するものではありません。

今後、各施策を推進していくにあたって具体的な動きを検討するときの素材として、もしくは市民や民間事業者が新たな動きやコトを創り出していく時の参考視点として、多様な形で活用されることを願っています。

また、より良いアイデアや事業案などが今後さらに追加されることにより、重点施策の検証や見直しにも活用できるものとなります。



重点 - ひと① 「市民一人ひとりが幸福を実感するまち」

- ・ 世代や性別など属性別での分析を行うことで、細やかな施策展開につなげる
- ・ 外部アドバイザーへの相談など
- ・ 他 KPI と併せて個別内容も確認できる調査方法

YOUR NOTE あなたのアイデアや、自分ができそうなことを書き足してください。

総合計画策定プロセスにおいて、様々な話し合いで出てきた提案やアイデア、視点をまとめたものです。ここに挙げられているものは、事業として実施を約束するものではありません。今後、各施策を推進していくにあたって具体的な動きを検討するときの素材として、もしくは市民や民間事業者が新たな動きやコトを創り出していく時の参考視点として、多様な形で活用されることを願っています。

重点 - ひと② 「富良野ならではの子育て環境づくり」

- ・ 看護師、保育士確保のための住宅補助(× 移住政策)
- ・ 若者向けの公営住宅(× 移住 × 住宅政策)
- ・ 既存施設での遊び場・居場所づくり(× 空き家対策)
- ・ 男性の育休取得企業支援(× 男女平など)
- ・ 認可外保育所の無償化(× 待機ゼロ対策)
- ・ へき地保育所の地域経営・小学校連携(× 待機ゼロ対策)
- ・ 0～3歳児に特化した公園(外)の設置
- ・ 民間幼稚園との連携、すみ分け
- ・ 情報発信・個人データのデジタル化 / プラットフォーム化
- ・ 切れ目のない支援に向けたスムーズな引き継ぎ
- ・ 子育て分野は幅広く、部局をまたいで連携・リレーシップ体制で「切れ目のない支援」体制の構築が必要で、そのためにデータ共有・情報の見える化に向けたプラットフォームの構築などデジタルなどの導入も効果的
- ・ 市民の役割を明確に。
- ・ ①お金をかけないとできないこと / ②お金かけられないけど簡単でないこと ⇒ ①子育て系の経済支援で結果はあまり変わらない。では何が本当に求められているのか：事業の中で随時把握する必要があるのでは。②共助での子育て、子育て世代が払うコスト ⇒ 事業者支援していく視点はどうか。
- ・ 子どもの医療費助成
- ・ 子育て環境を考える共創ワークショップ
など

YOUR NOTE あなたのアイデアや、自分ができそうなことを書き足してください。

重点 - ひと③ 「郷土愛につながる富良野でしかできない『体験』の推進」

- ・自然をベースとした体験 × 知育による経験学習(富良野の自然資源の全市民体験支援)
- ・アウトドア体験とワークショップの融合
- ・子ども未来フォーラム「体験・体感・感動」と「学び」がセット
- ・演劇や野球など富良野をベースに活動している団体とのコラボレーション
- ・外国人移住者やインバウンド来訪者などが多い環境を活かした外国語習得と海外の文化、背景などの理解
- ・デジタル教育 ※重点基本②
- ・富良野の資源を利用した遊びや学びを創り出す。
- ・企業への実験フィールド提供 × 市民の学び
- ・基本構想のメッセージを PR する動画や絵本などのコンテンツ
- ・水の循環をテーマとした環境教育(森の教育とのリンク)
- ・見せ方、発信力のアップデート
- ・難しい時代に入って、ダメなところさが増えている⇒ほめる文化を醸成するような文化づくり
- ・時代背景の変化に応じて変化できているかの検証(自治会の地域活動、地域ごとのイベントなど)してから体系化。
- ・「北海へそ祭り」「北海へそ踊り」「自然」「文化」「市史」など、地域の伝統的な行事・芸能の伝承と発信のために、学ぶだけでなく学習成果の実践の機会として、市外の方(観光客や来訪者)との交流の機会を構築する。

など

YOUR NOTE

あなたのアイデアや、自分ができそうなことを書き足してください。

重点 - ひと④ 「いつまでも健康で自立できる心と体づくり」

- ・ ナッジ(行動科学の知見の活用)などによる自主的な健康習慣づくりにつながるしかけづくり
(例) 河川敷に後ろ歩き／早歩きゾーンの設置、歩きたくなる／登りたくなるなどフレイル予防ナッジ
- ・ デジタルヘルスの推進 ※重点基本②
(例) 活動や健康状態の見える化(スマートウォッチ)
- ・ マッチング(人と人／人と情報／人と場所)・・・※重点まち①
- ・ 介護度改善に対するインセンティブ など
- ・ お散歩支援サービス(夕食前の散歩をサポートする仕組み)
- ・ サイクル・ウォーキング・ランなど、日常的に愛好される市民活動活性化を戦略的に実施し、愛好者間のコミュニケーション拡大を図るとともに、将来的にはこれをきっかけにコミュニティ化された市民によって、観光客や出張者を含む来訪者との交流を促す(自然発生的がベスト)。
- ・ フェーズとしては、環境整備と市民への発信・愛好者の誘導→モニタリング→市民活動体系の定着化→市外への発信・利用促進
など

効果を出すために、

- ・ 行動科学／行動経済学についての学習と、具体的しかけの共創
- ・ デジタル教育、利活用の推進
など

YOUR NOTE あなたのアイデアや、自分ができそうなことを書き足してください。

重点 - ひと⑤ 「富良野につながっている人が増える仕組みづくり」

- ・ 出身者や過去居住者とのネットワーキング
- ・ ファンとつながり続ける仕組み
- ・ 関係度合いやファン度の測定
- ・ プロモーション強化
- ・ 関係人口と地域をつなぐマッチングの仕組み構築 ※重点まち①
- ・ クリエイティブスペース(ワーケーション来訪者 & 市民両方利用可) ※重点基本①
- ・ 企業や大学などとの連携促進
- ・ 「共感」を引き出す取り組み
- ・ 富良野への提案 & 返戻の仕組み
- ・ ワーケーション利用者の声を活かす
- ・ コーディネーターなどの存在⇒アイデア など
- ・ 空気の良さの発信

など

YOUR NOTE あなたのアイデアや、自分ができそうなことを書き足してください。

総合計画策定プロセスにおいて、様々な話し合いで出てきた提案やアイデア、視点をまとめたものです。ここに挙げられているものは、事業として実施を約束するものではありません。今後、各施策を推進していくにあたって具体的な動きを検討するときの素材として、もしくは市民や民間事業者が新たな動きやコトを創り出していく時の参考視点として、多様な形で活用されることを願っています。

重点 - しごと① 「新たなチャレンジを応援する」

- ・ビジネスプランコンテストの実施および受賞者への支援 ※重点基本①
- ・「夢」を語り、応援者とマッチングする機会の創出 ※重点まち①
- ・地域のニーズ発信により、実現してくれる起業家を募集
- ・起業者の家族への移住支援パッケージ(ビジネスコンテストや一定の条件クリアの際に、家賃補助、スキーシーズン券、子育て支援特典などのインセンティブをセットにする)
- ・就農チャレンジプランコンテスト
- ・地球温暖化による作物変化への早期対応(ぶどう、さくらんぼ他)
- ・プロモーション強化(過去のチャレンジストーリー、現在進行中のチャレンジなど)
- ・市民が新規チャレンジを応援する空気づくり
- ・ターゲット別の枠の設置(医師/家族連れなどによりインセンティブ付与)
- ・TED× 演劇工場
- ・空き家の店舗化支援
- ・ワンストップの相談窓口(相談者にわかりやすい・情報の一元化)
- ・うまくいっているが後継者がいない店などのマッチング
- ・農業の規制緩和(作物、地域など)

など

YOUR NOTE

あなたのアイデアや、自分ができそうなことを書き足してください。

重点 - しごと② 「地域内産業の付加価値を高め、稼ぐ力を強化する」

- ・ 単価向上 × 経験価値向上プロジェクト
 - ・ 付加価値創造ラボの開催 ※重点基本①
 - ・ 「経験」系コンテンツの充実：自然アクティビティの強化など(ツアーガイド、コンテンツ強化など)
 - ・ 滞在期間増 × 消費単価増につながるサービス開発(インバウンドや富裕層向け)
 - ・ 季節雇用者の通年雇用システム(派遣会社など)
 - ・ デザイン力の積極活用、グッドデザイン賞への応募等
 - ・ デジタル利活用によるダイレクトマーケティング推進
 - ・ 生産者や提供者のストーリーや想いを視える化し、付加価値かするための支援
 - ・ 観光 × 農業のサービス開発：農家体験型レストランなど
 - ・ 農業加工品などの生産施設の整備
 - ・ 農業の競争力強化：農業生産法人化
 - ・ 東京など外への発信強化(プロモーション)
 - ・ 10次産業化(+4次)
- など

効果を出すために

- ・ マーケティングプロモーション、ブランディング強化など

YOUR NOTE あなたのアイデアや、自分ができそうなことを書き足してください。

重点 - まち① 「マッチングを通じて新たな価値を創造する」

- ・ 新たなマッチングシステムの構築
- ・ コーディネーター(組織化、ネットワーク)
- ・ 情報が集まる場所をつくる
(仕事・困りごと・担い手候補・仲間・時間・場所の使い方、時間や場所や資源や能力などの余力など)
- ・ 集まった情報から、新たなテーマや課題設定 ※重点基本①
- ・ インターンシップの積極活用
- ・ 市民のアイデア窓口
- ・ 地域おこし協力隊の活用推進
- ・ 「みんなの0円物件」
- ・ 1日だけ体験
など

効果を出すために、

- ・ 行政と民間の共創
- ・ 情報が集まるしくみづくり
- ・ 関係人口だけでなく企業や大学などとのマッチング
など

YOUR NOTE あなたのアイデアや、自分ができそうなことを書き足してください。

重点 - 自然① 「豊かな自然環境を 100 年後につなぐ」

- ・ 市民参加型の定期チェックシステムの構築
 - ・ 自然保護、景観保護を前提とした開発
 - ・ 自然を感じる体験+チェックシステム
 - ・ ゴミ再資源率向上によるクリーンイメージプロモーション
 - ・ 富良野の自然ブランド力強化と総合的プロモーション
 - ・ ユニバーサルデザインの活用(外国人に分かりやすいゴミ分別など)
 - ・ 自然環境の整備・保全、新たな魅力につなげていく
 - ・ 空気の良さの発信
 - ・ 地域おこし協力隊の活用によるチェックシステム
 - ・ 山の賃貸化
 - ・ 広葉樹の植林
- など

効果を出すために、

- ・ 市民の意識調査
 - ・ 行動変容(ナッジの活用など)
- など

YOUR NOTE あなたのアイデアや、自分ができそうなことを書き足してください。

重点 - 基本① 「アイデアが生み出され、形になる仕組みづくり」

- ・ワークショップ(テーマ別：ふるさと納税／移住促進／女性・子育て／地域別／4つのWA別など)
- ・ワークショップと試行検証をセットにして実施
- ・イベント(新規ビジネスコンテスト・ハッカソンなど)
- ・クリエイティブスペースの創出／常時開放(市民だけでなく、ワーケーション利用者にも開放)※重点ひと⑤
- ・イノベーション手法やファシリテーション手法の体験と育成
- ・コンサルティング／コーチングによる新たなビジョンや解決策が生まれる場
- ・クラウド型ワークショップ
- ・パリ型市民参加システム(アイデア公募⇒市民投票)
- ・外部人材の登用、民間との連携など
- ・おとな未来づくりフォーラム
- ・みんつく予算、1%支援制度
- ・市民のアイデア窓口
など

効果を出すために、

- ・アイデアが出た後→実際に具現化されること。
- ・民間のグループを組成(市が支援、市民からの応援など)
- ・重点施策の見直しとの連動
など

YOUR NOTE あなたのアイデアや、自分ができそうなことを書き足してください。

重点 - 基本② 「デジタル利活用による行政サービスの向上」

<市役所内>

- ・「情報の横断的な共有」「オープンデータ化」「ICT化による業務の生産性向上」
- ・市ホームページのリニューアル

<市民向け>

- ・行政手続きのオンライン化
- ・LINE 公式アカウントや FACEBOOK 他、個人が選択できる情報入手方法により、必要な情報が必要な時に届けられる
- ・スマホ／タブレットの利用促進支援
- ・セミナーなどの開催情報、リアルタイム配信、アーカイブ視聴
- ・デジタル弱者へのサポート

など

効果を出すために、

- ・データに基づく分析と検証
- ・魅力ある商品／サービス開発
- ・効果的なマーケティング／プロモーション
- ・外部人材の登用や民間との連携による推進体制の強化

など

YOUR NOTE あなたのアイデアや、自分ができそうなことを書き足してください。

重点 - 原資 「未来への原資を確保し続ける」

- ・ふるさと納税の推進強化
- ・企業版ふるさと納税の推進強化
- ・宿泊税の再構築
- ・その他、クラウドファンディング／ネーミングライツ／スペースレンタルなどの検討
- ・市民ファンド
- ・成功報酬型による民間へのふるさと納税推進委託
- ・商品だけでなく体験／アクティビティなどの返品品
- ・原資を考える共創ワークショップ

など

効果を出すために、

- ・データに基づく分析と検証
- ・魅力のある商品／サービス開発
- ・効果的なマーケティング／プロモーション
- ・外部人材の登用や民間との連携による推進体制の強化

など

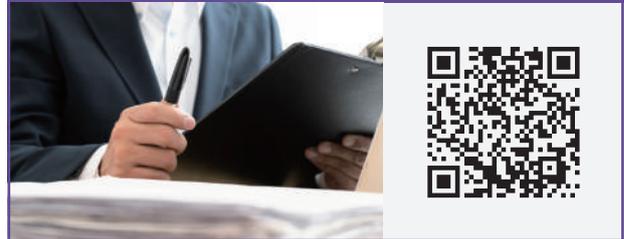
YOUR NOTE あなたのアイデアや、自分ができそうなことを書き足してください。

関係リンク集

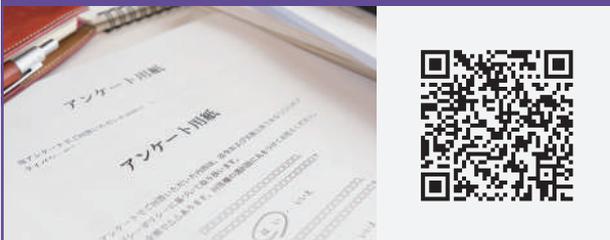
市民協働100人ワークショップ・ハーベストレポート



市民意識調査



転出入者アンケート



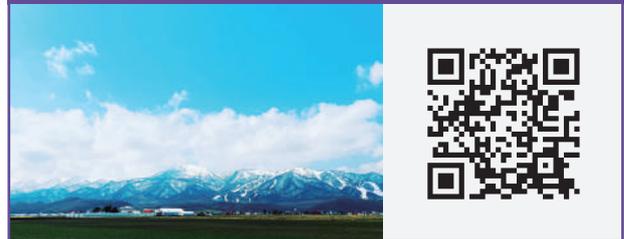
地域懇談会



有識者会議



パブリックコメント(基本構想)



パブリックコメント(人口ビジョン・前期基本計画)



まちづくりワークショップ ショートムービー





一人ひとりにできることってどんなことだろう・・・

<一人ひとりにできることってどんなことだろう>

7つの質問(P6 ページ)をかんがえてみる。

アイディアをメモしてみる。

だれか近くの人にアイディアを話してみる。

一緒にみらいを考える仲間を見つける。

自分でできそうなことをトライしてみる。

まちづくりのイベントや活動に参加してみる。

一人ひとりにできることって何があるのかを、家族で、学校で、職場などで話し合ってみる。

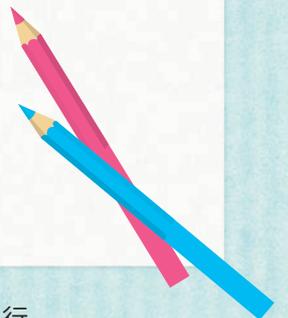
・
・
・



「みらいを旅するノート」、

それはわたし自身のためのノート。そしてまちのためのノート。

「みらいを旅するノート」に記すわたしの最初の1ページ・・・





わたしの「一歩」
みんなの「一歩」

「美しい」のその先を
みんなで見にいこう